修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8―7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

> 修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
> 従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
> （財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

保護家庭の修学旅行

援助費の増額を

全修協　組織あげ運動展開

生活のひずみにあえぐ貧しい家庭の子どもたちにも楽しい修学旅行を―と文部省では毎年、国の予算から要保護・準要保護世帯の児童生徒に対して援助費を出している。（半額は地方自治体負担）しかし文部省の概算要求はいつも大蔵省の査定で削減されるのが通例で、このままでは実施不可能の状態に追いこまれるのが実情。修学旅行でも教育の機会均等を願う立場から全修協では本年度の運動方針に従って実施可能な援助費を確保するため全組織をあげ、関係方面に対し強力な活動を展開することになった。

小・中学校の修学旅行は義務教育の上から全員参加を建前として要保護・準要保護児童生徒の旅行費を国や市町村がそれぞれ補助負担することになっている。来年度の補助金も文部省から小学生二千五百十円（千八百円）中学生七千百二十円（五千八百円）がそれぞれ要求されている。（カッコ内は本年度）

いま文部省の要求額を四十四年度各府県の旅費基準額に比較すると、小学生一泊二日の二十六府県の平均旅費二千四百二十七円、中学生三泊四日の八県、平均旅費六千八百四十円でそれぞれ若干上回わっているが、本年のバス代平均三〇%以上、宿泊料五十円―百円以上の値上りを入れると、四十六年度の修学旅行費用は、文部省の要求額では賄えないし、これに児童生徒の仕度費、小遣銭などを加えると旅行費はさらに増えることになる。

つぎに地域別に見ると、関東、東海、近畿の各地域は、大部分が新幹線を利用するようになり、中学生の二泊三日で一万円前後に増え、また他の地域でも、道路の整備でバス利用が増えてくるので、交通費が増額することは明らかである。

このような見地から、本年度文部省の要求額は、小学生三千円、中学生八千円に増額してほしいところである。

この補助金の要求について、財団法人全国修学旅行研究協会の白滝末紀事務局長はこう語っている。

白滝事務局長

「修学旅行は学校生活で一番思い出に残る楽しい行事で、子供たち全員がいっしょに先生たちと旅行をし、同じ食事をしたり、同じ部屋に泊ったり、故郷から離れた未知の自然や文化財に眼をみはる――そんな楽しい学校行事である。貧困家庭の児童生徒に、このような配慮をして頂く国や文部省に私は心から感謝するとともに、この補助金で旅行費が賄えるようになってほしいと思う。

全修協としては全組織を動員して援助費の増額運動を展開することにしている。」

新幹線と修学旅行

国鉄旅客局営業課長補佐

百瀬　茂

百瀬茂氏

東海道新幹線を利用する修学旅行生徒に対する特急料金の割引については、かねて全国高等学校長協会長、全日本中学校長会長、全国修学旅行研究協会理事長、日本修学旅行協会長などから国鉄総裁あて要望書が提出されており、国鉄として検討の結果、三月十三日修学旅行の教育的意義等を勘案して、一定の条件に従ってもらった場合に高校生二割、中学生五割引で実施することに決定した。

この決定に基づいて、地域的に組織されている修学旅行委員会等と国鉄の各支社との間で話し合いを進めた結果、昭和四十六年分についてはほぼ具体的要請が出揃ったのでこのほどつぎの通り具体的に輸送列車等を決定した。（注・実施段階で若干の変更が生じる場合もある。なお四十七年分については今後具体的要請の提出をまって、十月下旬までに実施計画案を作成することとしたい。）

昭和四十六年春季輸送計画

A、神奈川県公立中学連合

【往路】三五三A（こだま）東京発七・五五、新大阪着一二・〇五（五月十五日―六月十五日）▼三九一A（こだま）東京発八・一五、新大阪着一二・二五（五月十五日―六月十五日）

【復路】三六六A（こだま）新大阪発一三・一〇、東京着一七・二〇（五月十七日―六月十八日）▼三六八A（こだま）新大阪発一三・五〇、東京着一八・〇〇（五月十七日―六月十八日）＝以上三十二日間、一日当り千九百名、総人員六万八百名。前年は五月二十一日―六月十八日実施。

A・関東地区中学連合

【往路】三九一A（こだま）東京発八・一五、新大阪着一二・二五（三月十六日―同二十二日、四月十二日―同二十五日）▼三九三A（こだま）東京発一一・一五、新大阪着一五・二五（三月十六日―同二十二日、四月十二日―同二十五日、五月十九日―六月十三日）

【復路】三〇六A（ひかり）新大阪発一二・四五、東京着一五・五五。（三月十八日―同二十四日、四月十四日―同二十七日、五月二十一日―六月五日）▼三二〇A（ひかり）新大阪発一四・二五、東京着一七・三五（三月十八日―同二十四日、四月十四日―同二十七日）＝以上往路二十一日間、一日当り千八百九十九名、復路二十六日間、一日当り九百五十名、総人員六万四千五百名。前年は三月十四日―同二十四日、四月九日―六月三十日（七月へ継続）

A、甲府市立中学連合

【往路】三九三A（こだま）東京発一一・一五、新大阪着一五・二五（五月九日―同十八日）

【復路】三〇六A（ひかり）新大阪発一二・四五、東京着一五・五五（五月十一日―同二十日）＝以上十日間、一日当り九百三十名、総人員九千三百名。前年は五月七日―同十二日実施。

A、東海三県中学連合

【往路】三九二A（こだま）（新大阪発七・五〇）名古屋発九・〇八、東京着一二・〇〇（四月十日―同二十二日）

【復路】三七一A（こだま）東京発一四、三五、名古屋着一七・二六▼東京発一五・五五、新大阪着一八・四五（四月十二日―同二十四日）＝以上十三日間、一日当り九百五十名、総人員一万二千三百五十名。前年は四月十四日―七月五日実施。

A、静岡県中学連合

【往路】三五一A（こだま）（東京発六・五〇）熱海発七・五七、京都着一〇・四〇（新大阪着一一・〇〇）（四月十九日―同二十六日、五月十一日―六月二十日）

【復路】三七六A（こだま）（新大阪発一六・一〇）京都発一六・二九、熱海着一九・二一（東京着二〇・二〇）（四月二十一日―同二十八日、五月十三日―六月二十二日）＝以上四十九日、一日当り九百四十二名、総人員四万五千二百名。前年は五月十六日―六月七日。

＝二面につづく＝

青少年旅行村を計画

運輸省

運輸省では過疎地域の農山村にレクリエーション施設をつくり、都市の青少年たちに利用させたいと"青少年旅行村"を計画している。その計画によると来年度から五年計画で全国に八十カ所程度つくるが、来年度は十六カ所で予算は国と地元市町村半額負担で約二億円。すでに全国から二百六市町村が候補地を出している。

旅行村の条件は①最近五年間に人口が一割以上減っている地域②大都市や地方の中心都市から交通が便利なこと③自然や人的環境がよく、地元の受け入れ熱が高いこと④一般民家の民宿や既存施設が活用できる、など。

修学旅行を誘致

北陸三県が懇談会

富山、石川、福井の北陸三県では修学旅行誘致の懇談会を九月二日、東京・丸の内の鉄道会館で開いた。三県市町村の観光課、運輸機関、旅館組合などの代表者、全修協からは前田中央研修部長が出席した。同地方は修学旅行や、研修旅行としても今後脚光をあびるが宿泊施設の整備が大きな条件になろうとの声が多かった。

要保護家庭

中学生　七千百二十円

文部省の概算要求

文部省では四十六年度の要保護および準要保護児童生徒に対する修学旅行と校外活動費の概算要求額を七億三千二百三十九万四千円と決定した。

来年度は諸物価、料金の値上がりと、一部地域で利用する東海道新幹線列車の差額分を含めて小学生二千五百十円、中学生七千百二十円とした。本年度にくらべ小学生は七百十円、中学は千三百二十円の増加となり、このほか産炭地域特別措置として千三百四十三万四千、円、新規分のへき地学校特別措置千十万二千円を加え要求額は五億七千七十六万一千円で、本年度にくらべると千百二十三万五千円の増額となった。対象人員は小学生が十一万五千八百七十一人、中学生十一万二千八百六十七人。

また、校外活動費としては五十一万二千九百五十二人の小学生一人に対して三百五十円（本年度は百円）二十四万三千五百四十九人の中学生一人に対して五百五十円（本年度百八十円）と、さらに産炭地域特別措置百九十八万円、新規のへき地学校特別措置として二百九十一万円をふくめ一億六千百六十三万三千円を要求することになった。文部省としては一人の不参加者もないよう修学旅行に重点をおいて援助費をまとめたという。

文部省初中局財務課事務官松隈茂喜氏談　来年は万国博もないのでその分を値上がり予測にそなえて算定した。もちろんこれはギリギリの線で、修学旅行の趣旨からいってもぜひこの要求が通るように努力したいと思っている。

首都美化運動始る

十月一日から一週間

東京都では首都美化運動を推進するため都民の日の十月一日から同七日まで"みんなで町をきれいにする週間"としてひろく都民に訴える。これに先き立って都広報室では九月二十一日東京上野の東京文化会館で各界代表から意見をきく会を開く。なおこの首都美化運動には全修協も協賛しているが美化運動は"国土の美化"にもつながっているところから全修協では全国運動としても推進する。

風紋

連日六、七十万の入場者をのみこんでふくれあがった万国博会場の混乱と騒音は、まったく言語に絶するというしかなかった▼これに比例して会場のよごれは目をおおうばかりであった。広場、通路はもちろんパビリオンの周辺までも、紙屑やビニール袋が一ぱいで、風でそれが足にからみつく、飲みすてられた空かんが、無数にころげまわる風景は、終末の万国博が世界の人々に露呈したまことに残念な姿であった▼屑入れの設備があってもあのように人の心の落ちつきを失ってしまうと、一種の錯乱状態におち入り、秩序を保とうという意識がひどく低下してしまうものかもしれない。異常事態はこうした時におこるものかと空おそろしい感じをもった▼この無秩序な人間の集団、その行動が新大阪駅まで延長され、平常比較的落ちつきと清潔さを保っている構内が、このところお盆の頃の上野駅なみにすっかり汚れきっているのは惜しいことだ▼これは烈しい暑さの中の何十万という大群集が短時間に移動するという超特別現象として、止むを得ないとしても、お盆帰省の人々が、上野駅の線路上に捨てた空かんの山はどう考えてよいものか。いかにお盆輸送で混むとはいえ、それは正常な状況下にあるものである。それが列車のたった後の線路が埋まるようにして、空かんなどが窓からデッキから捨てられてあるのは、いかにも情なくハラがたつ思いであった▼また、夏の奈良公園で清掃人が空かんの山を積んでいるところを複雑な思いで見て通ったが、われわれ日本人の道義心の低下もさることながら、かん詰ジュースという商品の大型生産がひとつの原因でもあろうかとも考えた。それにしても一億総レジャーという時代の波の中で、国土を美しく保とうという気持は日々に薄れていくのはどうしたらよいのだろうか▼結論としていえることは、修学旅行の生徒たちこそ、国土美化運動の最も大切なにない手であり、この精神の奥底にきざみ込むしか、救いようがないようにも思われる

修学旅行の学習効果向上のために

全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪(441) 9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください

ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として"修学旅行映画"シリーズを製作しております。

●修学旅行映画シリーズ
奈良　京都　京都の庭園　富士箱根　日光
大和の国なか　大和の塔　火とみどりの国
瀬戸内海　みちのく　大和の道　大和の石
（いずれも文部省選定,16ミリカラー,上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト

〔別表〕修学旅行輸送計画新幹線利用状況

	新幹線又は東海道在来線利用区分	46年 春（3～6）	46年 夏（7～9）	46年 秋（10～11）	46年 計	46年 記事	47年 春（3～6）	47年 夏（7～9）	47年 秋（10～11）	47年 計	47年 記事
北海道	対象人員計	3,850人	人	65,826人	69,676人		4,096人	人	62,047人	66,743人	
	新幹線利用	3,850		53,814	57,664		4,096		50,635	54,731	
東北	対象人員計	10,500		21,500	32,000		13,000		21,500	34,500	
	新幹線利用	8,750		21,500	30,250		12,250		21,500	33,750	
新潟	対象人員計		10,080	30,420	40,500			10,080	30,420	40,500	
	新幹線利用		10,080	30,420	40,500			10,080	30,420	40,500	
関東	対象人員計	236,609		79,190	315,799		351,260			351,260	
	新幹線利用	149,000		35,305	184,305		351,260			351,260	
中部	対象人員計	136,638		33,600	170,238	中京地区高校連合は対象外として47年に入れた。	146,816		34,144	180,960	
	新幹線利用	72,702			72,702		129,536		26,464	156,000	
関西	対象人員計	145,038		25,181	170,219	秋季分 和歌山地区発 検討	145,038		49,269	194,307	岡山地区発
	新幹線利用	67,627		10,633	78,260		138,038		46,269	184,307	新設
四国	対象人員計	9,000		23,000	32,000		11,000		23,000	34,000	岡山開業に伴う利用増を含む。
	新幹線利用	7,500		19,500	27,000		9,900		20,700	30,600	
中国	対象人員計	8,546	13,026	23,925	45,497		8,946	13,976	25,126	48,048	
	新幹線利用	－	－	－	－		－	－	－	－	
九州	対象人員計	14,000	17,600	46,000	77,600	45年に万博見学のため1年生が繰上げたので減。	14,000	20,000	46,000	80,000	
	新幹線利用	14,000	17,600	46,000	77,600		14,000	20,000	46,000	80,000	
合計	対象人員計	564,181	40,706	348,642	953,529	59.5%	694,156	44,056	292,106	1,030,318	90.3%
	新幹線利用	323,429	27,680	217,172	568,281		659,080	30,080	241,988	931,148	

（注）1．対象人員計とは、東海道本線を新幹線又は在来線利用で輸送される修学旅行の合計人員（片道）である。
2．新幹線利用とは、対象人員に対する新幹線利用人員の内訳である。但し、片道のみ利用する場合は、0.5換算として計算した。

46年春季輸送計画

=一面のつづき=

A、福井県中学連合

【往路】三九二A（こだま）（新大阪発七・五〇）米原発九・〇七熱海着一一・〇七（東京着一二・〇〇）（五月九日—同十八日）

【復路】三七一A（こだま）東京発一四・三五、米原着一七・五六（新大阪着一八・四五）（五月十一日—同二十日）=以上十日、一日当り九百五十名、総人員九千五百名。前年五月十八日—同二十八日。

A、近畿地区中学連合

【往路】三九四A（こだま）新大阪発八・五〇、東京着一三・〇〇（四月十四日—同二十五日、五月二十九日—六月二十日）▼三六二A（こだま）新大阪発一一・一五、東京着一五・二五（五月二十九日—六月十三日）

【復路】三〇七A（ひかり）東京発一二・四〇、新大阪着一五・五〇（五月三十一日—六月十五日）▼三〇九A（ひかり）東京発一四・二〇、新大阪着一七・三〇（五月三十一日—六月二十二日）▼三九五A（こだま）東京発一四・一五、新大阪着一八・二五（四月十六日—同二十七日。五月八日—同三十日）=以上七十四日、一日当り九百十四名、総人員六万七千六百二十七名。前年四月十二日—六月十四日実施。

A、富山県中学連合

【往路】三九二A（こだま）（新大阪発七・五〇）京都発八・〇九東京着一二・〇〇（五月二十一日—同二十七日）

【復路】三五九A（こだま）東京発九・五〇、米原着一三・一二（新大阪着一四・〇〇）（五月二十三日—同三十日）=以上七日、一日当り九百四十二名、総人員七千名。

B、北海道高校連合

【往路】四五A（ひかり）東京発一三・二〇、新大阪着一六・三〇、団わく数七九五名（三月二十一日—同二十八日）

【復路】三〇二A（ひかり）新大阪発八・四五、東京着一一・五五、団わく数千百五十名（三月二十四日—四月一日）=以上八日、一日当り五百五十名、総人員三千八百五十名。

B、岩手・宮城県高校連合

【往路】三〇九A（ひかり）東京発一四・二〇、新大阪着一七・三〇、団わく数千百五十名（三月二十四日—同三十一日）

【往路】三九四A（こだま）新大阪発八・五〇、東京着一三・〇〇、団わく数九百四十五名（三月二十九日—四月五日）=以上七日、一日当り千名、総人員七千名。

B、青森・岩手県高校連合

【往路】六一〇三、東京発二一・一〇、大阪着六・三五（三月十六日—同二十二日）

【復路】三九四（こだま）新大阪発八・五〇、東京着一三・〇〇団わく数九四五名（三月二十一日—同二十七日）=以上七日、一日当り五百名、総人員三千五百名。

B、九州高校連合

【往路】4A（ひかり）新大阪発六・二五、東京着九・三五、団わく数七百九十五名（三月十三日—同二十六日、七月二十二日—同三十一日）

【復路】七一A（ひかり）東京発一七・四〇、新大阪着二〇・五〇、団わく数七百九十五名（三月十六日—同二十九日、七月二十五日—八月三日）=以上二十四日、一日当り九百八十三名、総人員二万三千六百名。

C、四国地区

▼A1コース　高松（一二便1）宇野（燕羽四号六〇M1）新大阪（三九六A1）東京（九A5）新大阪（燕羽四号六〇五M5）宇野（一七便5）高松。

▼A2コース　松山（一〇四D1）高松（A1コース）高松（六一三D5）松山。

▼A3コース　高知（二〇四D1）高松（A1コース）高松（七一三D5）高知。

総人員Cコースを含めて二百五十名（四月十一日—同二十二日、五月十一日—同二十二日）

▼B1コース　高松（一四便1）宇野（六一〇M、一〇一四）新大阪（一六二A1）東京（七一A5）新大阪六二三5、六一七M5）宇野（三便6）高松。

▼B2コース　宇和島（六〇四D1）高松（B1コース）　高松（六〇一D6）高知。

▼B3コース　高知（七〇四D1）高松（B1コース）高松七〇一D6）高知。

以上人員二百名（四月十一日—同十七日、五月十一日—同十八日）

▼Cコース　小松島（別途1）元町（便電1）新大阪（三九六A1）東京（九A5）新大阪（便電5）元町（別途5）小松島。

以上人員二百五十名（四月十一日—同二十二日、五月十一日—同二十二日）

C、東京都公立高校連合

【往路】一一A（ひかり）東京発七・四〇、新大阪着一〇・五〇（三月十八日—四月五日）

【往路】三一二A（ひかり）新大阪発一六・二五、東京着一九・三五（三月二十一日—四月八日）=以上十九日、一日当り七百九十五名、総人員一万五千百五名。

お知らせ　「昭和四十六年度秋季輸送計画」は次号に　掲載します。

輸送は府県単位で

教職員も同率割引き

昭和四十六年および昭和四十七年の利用状況は別表のとおり、対象人員九十五万四千人で五九・五%となっているが、四十七年は九〇・三%と増加している。今後年を追って利用人員は増加すると思われるが、できるだけ早くすべての人が利用され、統一された輸送が実現するようにしたいと思っている。

なお実施上の条件その他のおもなものはつぎのとおりである。

ア、前提条件

地域単位にまとまった場合、実施期間・利用列車等を指定して集約輸送を行なう。（注）「地域単位」とは都道府県または特別市程度をいう。

イ、輸送計画

（ア）列車本数

中学校生徒を対象とした東京方（東京都、関東六県等）から二往復、大阪方（京阪神三市と近畿二府四県等）から二往復、名古屋（東海三県等）から一往復。

高等学校生徒を対象として二往復の列車を充当する。

（イ）実施時期

春季は三月から七月まで、秋季は九月から十一月までとし、ゴールデン・ウイーク等繁忙期は極力さけることとする。

ウ、特急料金の割引

上記のア・イを条件として東海道新幹線列車を利用される場合は次の割引を適用する。

中学校生徒五割、高等学校生徒二割。

エ、集約臨時列車（規第四条第二項第二号）程以上を対象とする。同一区間を引続き七回以上運転。

オ、数県で同一連合体となっている場合で、府県別に実施時期がまちまちで段階的に実施して行く場合は前年度の実施時期等に関係なく、実施年度毎に当該連合体全体で協議決定してもらうことを条件とし、話合いのまとまったものから実施してゆくこととしたい。

カ、教職員および添乗員の料金割は、同行する生徒と同率とする。

キ、当該団体については旅客およぴ荷物営業規則（昭和三十三年九月、日本国有鉄道公示第三三五号）第五十七条の二に定める割引を併せて行なう場合も生ずる。

ク、同一連合体に専用臨として充当する場合。

（ア）一般発売はしない。

（イ）グリーン車の使用は原則として認めない。ただし、構成人員の都合により、普通車の定員を越える場合はこれを認める。

（ウ）ビュッフェの営業は、当該列車の運用等を勘案して、設定の都度具体的に指示する。

ケ、定期列車の団体引受枠を使用して行なう場合は、号車単位で一般発売を行なう。

横顔

進取の気象に富む

―全修協栃木県支部長―

北条虎雄氏

★…「先生、おいくつですか」と顔を見れば誰からもきかれるという。体躯堂々、頭髪は黒々とし、血色もよく、とにかく年令より十歳以上は若い「いや頭脳のていどが低いからでしょうか」と苦笑する。「今までの修学旅行は電車や列車が中心だった。これからは船舶利用の修学旅行を計画してはどうだろうか」と提案する。

★…北条氏の望みは広々とした海洋へ飛立つこと、せまい国土から飛翔する"進取の気象"を会得させたいという気持ちからであろうか。いわゆる趣味道楽というものは一切なしという。「まあ、仕事が趣味でしょう」

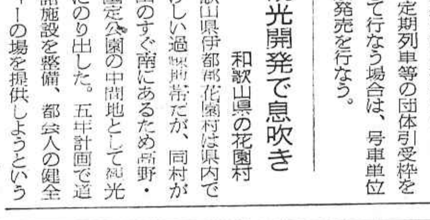
名支部長といわれた野沢某氏のあとを受けた北条氏は修協の支部長として、また県連合教育会長としても力量を発揮するだろう。

★…栃木県師範学校卒。県視学や県内各小学校長を歴任、全国連合小学校長会理事・県小学校長会長などを歴任して、県連合教育会長、全修協県支部長に就任。

観光開発で息吹き

和歌山県の花園村

和歌山県伊都郡花園村は県内でもはげしい過疎地帯だが、同村が高野山のすぐ南にあるため高野・竜神国定公園の中間地として観光開発にのり出した。五年計画で道路や諸施設を整備、都会人の健全レジャーの場を提供しようという

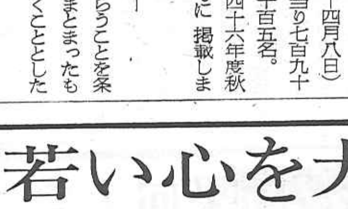


東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585−1046(代表)

東京 コマ旅行会館



若い心を大きく広げる

豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）

見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船 ふじ・にほん丸が、生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。

●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講議用TVシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店 東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273−8911